

第2回 防災研修プログラムの改定に関する検討会 議事要旨

- ・ 日時：令和3年2月10日（金）9:30～11:30
- ・ 場所：オンライン開催
- ・ 出席者：

座長	鈴木 秀洋	日本大学危機管理学部危機管理学科 准教授
委員	宇田川真之	防災科学技術研究所災害過程研究部門 主幹研究員
同	高橋 聖子	江戸川みんなの防災プロジェクト プロジェクトマネージャー
同	野々口敦子	男女共同参画と災害・復興ネットワーク 運営委員
同	紅谷 昇平	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授
- ・ 議事
 1. 開会
 2. 議事
 - （1）「防災研修プログラム」の教材について
 - （2）「防災研修プログラム」の試行について
 - （3）ヒアリング調査の実施（報告）

議事（1）「防災研修プログラム」の教材について

○セッション1で重要なポイントが二つある。一つ目は、基本的に災害というのは平常時の延長であり、平常時に起こっている社会・経済的な不平等な構造が、災害という一つの出来事によって明確に現れてしまうこと。二つ目は、災害という出来事は人も場所も選ばないが、リスクに対する備えや、災害で受けた被害のインパクト、被害から立ち直る力は人それぞれに違いがあり、その違いが災害時に現れるということ。リスクの概念は、「災害」×「脆弱性」で考えられ、脆弱性は一人一人違うので結果が変わる、という点から「ジェンダーと防災・災害復興」の関係性が理解してもらえるのではないかな。

○前回の教材作成時にも、女性の方にどういう困り事があったかを分かりやすく、まず伝えるのが良いという議論があった。セッション2にある被災地の事例を使って説明し、それらの困難を解決するには、女性が現場にも意思決定する方にもいる必要があり、その背景には平時からのさまざまな問題が潜んでいて、それは女性や障害のある方など多様性がある、と説明していくとよいのではないかな。

○対象者が防災の方を中心に考えているのであれば、セッション1の冒頭の『災害とは』は必要なく、男女共同参画の基本を伝えたほうが良い。セッション1のスライド『現状の災害対応は』や『その結果、被災者は』の3枚の内容を膨らませ、具体的なデータやエピソードを出しながら

ら男女共同参画の理解を図ってはどうか。

- 女性が困ったことだけでなく、高齢者の方が多く亡くなっていることなど、過去の災害に何があったのかを伝えたほうが分かりやすい。その背景には、ケアの知識は女性のほうが比較的多いが、そういう方々が意思決定に参画していなかった、男女にはニーズに違いがあるなど、過去の実態について数字を示して具体的に伝えるのが大事。
- セッション1で参加者に世界と比べた日本の男女共同参画の現状を伝える場合、世界経済フォーラムが毎年出しているジェンダー・ギャップ指数が参考になる。その中に管理職や国会議員に占める女性の割合が指標として含まれており、その値等を基に国別でランク付けされている。都道府県や市町村レベルの防災にかかる意思決定の委員に女性がほとんど含まれてないことを、世界基準から考える上で参考になる。「男女共同参画の視点」として、女性が防災や災害復興の意思決定に主体的に関わることを促進する必要がある、そういう指標を使うのも効果的。
- セッション1のスライド14、15にある項目の具体的な事例をストレートに入れると、地方公共団体の首長や部局長などの幹部にとっても分かりやすくなるのではないかと。また、男女の差を伝える際は、女性の困り事のほか、アルコール問題では男性の方が多といったデータも使って、男性と女性で違いがあることを伝えると入りやすい。復興時の就業に関する女性への配慮の必要性も理解を得やすい。
- 男女共同参画の視点を入れると何故いいのかについては、それをしておくと、まず、気象災害や津波のときの被害者が減る可能性が高いことや、避難生活で災害関連死が起きにくいことなどのメリットを、エビデンスを示しながら最初に提示するとよい。
- 具体例を出したほうが良いものについては、フェーズやテーマに分けてはどうか。避難フェーズにおいて、東日本大震災や豪雨災害では高齢者の方が多く亡くなっているが、その時に地域にいるのは男性よりも女性であること。女性が普段の避難訓練などに参加したり、意見を言うことが大事であること。避難生活フェーズでは、支援へのアクセスや、性被害など、みんなが安心安全に過ごせるためには、いろんな人の意見が必要であること。復興フェーズでは、女性のケア役割が顕在化されてしまい仕事を失いやすいことや、町の復興に対して女性の意見が入らないといったこと。そのようなことを、エビデンスになるデータも使って、しっかりと課題を見せていく入りが大事ではないか。
- セッション1では何故やったほうがいいのか（Why）と、何が課題か（What）を扱い、次にやり方（How）が出てくるっていう構成にするとよい。
- みんなが困っているということは、防災ではとても言いやすい。女性の視点と言ってしまうと、もっと困っている人もいるとか、女性ばかりではないとかいう議論になるが、みんなが助かるという入り方にすると納得しやすい。
- 既存の研修プログラムでは、東日本大震災時の男女のニーズの違いのグラフや、被災者の生の声など、データや定性的な証言の両方を使っており、これらのスライドは説明しやすい。また、睡眠障害のほうは女性が多く、アルコール依存症は男性が多いといった対比や、復興における就職の求人状況の違いも分かりやすい。
- 進め方の一つの案として、男性の行政職員を対象にするとすれば、障害者、外国人、女性など多様な人と、行政が災害時にやるべき業務を掛け合わせたマトリクスのようなイメージを持ってもらい、自分が行うべき業務で、多様な人達への配慮を考えないといけないことを、まず理解していただく。その上で、男女で異なる災害の影響や必要な配慮、女性の雇用問題といっ

た流れで説明する。その後で、男性の皆さんは話を聞くまで分からなかっただろうが、こういうことを考えるには、やはり女性に意思決定の場に入ってもらい、担い手としてもっとしっかり関わってもらうのが良いということ話す。

- 第5次男女共同参画基本計画では、防災分野について書いている。都道府県は必ず男女共同参画計画を作ることになっており、多くの市町村でも作成している。防災基本計画も、昨年5月に、地域防災計画において男女共同参画担当課や男女センターの役割を明確化するよう努めることを盛り込み、内閣府政策統括官（防災担当）と男女共同参画局長の連名で都道府県知事・政令指定都市市長宛に通知した。このように枠組みはできてはいるが、個々の職員レベルでは、男女共同参画の重要性は理念上では分かっているが、具体的に業務を行う際には、何の関係があるのか、防災に限らず考えが及ばない人が大半ではないかと思う。女性の視点に配慮することが、ひいては皆のためであることをどう伝えていくかを、個々人が腹落ちするレベルに伝えていくところの難しさがある。
- 例えば避難所の主担当になる部署は防災部署や男女共同参画部署に限らないので、そうした庁内各部署の職員の個々人が広く、災害時の男女共同参画の重要性を理解し、避難所での具体的な配慮を知ることができる研修がひとつ重要。ただし、職員個々人の知識、対応を期待するだけではなく、組織的に対応することが求められる。避難所運営を担当する部署と男女共同参画部署、あるいは防災部署がどのように協力するのかを伝えられる研修がひとつ重要。また、自治体の上層部が、災害時の男女共同参画の重要性を認識し、全庁的な対応を促すことも重要。研修としては、幹部レベルの認識、担当部署の連携、個々の職員の活動、の3レベルで具体的な望ましい対応を提示できるとよい。
- 災害が起こったら全ての部署が災害対応に関係があることを、具体的に説明する必要がある。女性への配慮も、それぞれの部署の業務でこのように関係するということまで、丁寧に説明する必要がある。セッション1の最初でその説明が必要ではないか。その視点で言うと、セッション3の、自分の業務を書き出して、男女共同参画の視点からこういう改善するといったことを考えてもらうというのはたいへんよい。
- 自分自身が地域で防災に取り組んでいる男性に話す場合、反発することは全くなく、「面白かった」「全然、見方が違った」「平等の概念が変わった。」といった反応がある。行政職員に対しても、支援内容を平等にするのではなく、支援結果として平等であるということ、内容ではなく結果の公平ということが大事だというメッセージを軸に考えると、セッション3のワークもやりやすくなるのではないかな。
- いろんな部署の人に加えて男女共同参画センターの職員も交えて、今後の取組などについて話しあえる機会をもてると、さまざまな部署間で関係づくりをすることができる。そのようにセッション3が使われるとよいと思う。
- 東大の大沢真理先生たちの調査結果にもあったが、自治体の男女共同参画課と防災担当課の平時からの連携が、災害時の支援や避難所運営等で効果を発揮した事例を示せるとよい。
- セッション1の入りやすさという意味では、まずは課題（脆弱性等）から入って、課題解決するためには男女共同参画で行政は当たるべきだという流れがよいと思う。しかし、本来は社会が多様であり、その上で男女共同参画が必要だといった理念を、研修全体の最後のほうでは大きな思想として残しておくなどして、小さくまとまり過ぎない方がよいのではないかな。
- セッション1と2の内容では重なるところがあるため、仕分けが必要。現在は、セッション2の内容が多いので、一部をセッション1に移すとよい。当事者意識を持ってもらうためには、

それぞれの部署が関係するという業務意識に訴える方法や一市民として考えてもらう方法、例えば介護が必要な親がいる場合や小さい子どもを抱えている場合大丈夫か考えてもらう方法など、幾つかの方法がある。

- セッション1でファクトを出すのであれば、セッション2はHowに集中するとよい。現在のセッション2では、Qがあつて、その後に困難なことがあつたという情報が続いているが、見ていてがっかりしてしまうように思う。好事例をどんどん出していく方がよい。越谷市などは、危機管理課と男女共同参画センター、地域の地区センターとが連携し、たいへんよい研修を行っている。ガイドライン以外の事例も集めて、自分たちはどうしようと前向きになれることが、セッション2の役割ではないか。
- セッション1では、事例で理解を促すことも重要であるが、災害復興や防災に男女共同参画の視点を組み込むための基本コンセプトを押さえることがとても大事。女性は男性と比べて社会経済的な事情から脆弱である一方、その点だけが強調されるのは問題で、女性も、男性と同様に防災・復興の担い手であり、助ける側の立場でもあるのだということを強調していただけるとよい。

議事（2）「防災研修プログラム」の試行について

- 研修の狙いを踏まえて設問を考える必要がある。大目標をさらに細分化させて目標を整理し、その目標をカバーした設問設定になっているかをチェックする手順が必要。
- 簡単なミニテストをやってはどうか。教材にセットで入れるのであれば、ある程度の客観的な理解度が分かるようになるのではないか。
- 各自治体に対してどのように周知をしたらいいかという設問は、部長級の職員等に絞って聞く必要がある。ワークショップを自分たちでもできそうかという質問については、誤解のないよう、ワークショップの対象者や方法などをしっかりと説明する必要がある。
- 各セッションの目標達成度についての自己評価は人により考え方が違ってくるので、ミニテストのほうがよいのではないか。研修全体への感想（有意義さ）は、受講の負担の大きさや、難しさなど、幾つか指標があるとよい。
- ミニテストは大変良い。研修後のミニテストで参加者の理解度を評価することで、研修の質的な評価としても活かせる。今後、このような研修を各自治体で進めていく中で、研修参加者の所属部署や職位、性別や、研修の実施回数などのデータを収集していくとよい。
- 今後、どうプロモートするとよいかについての意見を収集する機会にするとよい。たとえば時間が長過ぎる、一度に人を集められないなど、研修を実施するときの課題の仮説を立て、その観点からアンケートを聞くのもよい。
- 性別、職位、年齢、部署程度は聞く必要がある。

議事（3）ヒアリング調査の実施（報告）

事務局より、取組事例に関するヒアリング調査の進捗状況について報告。

以上